

第18回 ちゅうでん教育振興助成（平成30年度）

報告書資料 一般 - 53

学校名・団体名	稲沢市立国分小学校
コース	学校支援
活動・研究のテーマ	「国分でよかった！」～心も体も安心・安全な学校～

〈活動・研究の意義および活動報告〉

1 はじめに

本校では、「夢に向かって、心豊かに、ねばり強くやり遂げる国分っ子の育成」を学校教育目標に掲げている。本年度は、①授業の中に地域の学習素材や体験的な学習を取り入れ、考えたくなる、話し合いたくなる授業の山場をつくることで、児童の関心を高め、「わかる」「できる」という実感をもたせる「授業づくり」の取組。②学校や地域の仲間との絆づくりをめざして、児童会、委員会、たてわり活動などにおいて、子どもたちのアイデアを生かした取組を進めることで、学校へ通いたいという気持ちをもたせる「絆づくり・居場所づくり」の取組。③安全ボランティアや地域の方々とともに、安心・安全な学校づくりをめざし、子どもたちに「自分の命は自分で守る」という意識を高める「安全教育」の取組の3つの柱で実践を積み重ねていくことを通して、学校教育目標に掲げる児童の育成をめざす。

2 研究のねらいと手だて

授業づくり (心の安心・安全)	絆づくり・居場所づくり (心の安心・安全)	安全教育 (体の安心・安全)
【ねらい】 授業の中に考えたくなる、話し合いたくなる授業の山場をつくることで、児童の学習内容に対する関心や意欲を高め、「分かる」「できる」という実感につなげる。	【ねらい】 児童会、委員会、たてわり活動などにおいて、子どもたちのアイデアを生かした取組を進めることで、学校に通いたくなる気持ちをもたせる。	【ねらい】 危険を避ける、気付く、防ぐという意識をもたせるための工夫を、避難訓練や学級活動、学習指導の中に取り入れることで「自分の命は自分で守る」という意識を高める。
【具体的な手立て】 ・考えたくなる、話し合いたくなる授業のしかけづくり ・具体的な写真、挿絵、ICT機器を活用した教材の準備 ・ねらいに迫る具体的な発問や指示の工夫 ・PDCAチェックシート	【具体的な手立て】 ・ねらいを意識した特別活動の企画・立案 ・QUアンケートの実施と分析 ・主体的な児童会、委員会活動の支援 ・たてわり活動の充実化 ・教育相談の見直し ・地域ボランティアの方との交流 ・PDCAチェックシート	【具体的な手立て】 ・学校安全計画の見直し ・避難訓練の見直し ・安全学習副読本の活用 ・ミニ通学団会の実施 ・緊急時引き渡し下校の見直し ・安全学習の記録（振り返り） ・PDCAチェックシート

3 活動時期と主な活動内容

外部から講師を招いた主な活動（学習会は教師対象、実践講座は児童対象）

6月	(絆・居場所)	【学習会】	『QUアンケート結果の解析方法』
7月	(絆・居場所)	【学習会】	『子どもを勇気づけることばがけ』
7月	(安全)	【実践講座】	着衣水泳
7月	(授業)	【学習会】	『ユニバーサルデザインの授業』

8月	(安全)	【学習会】	『避難所運営経験から学んだこと』
10月	(安全)	【実践講座】	愛知県警による防犯教室
11月	(絆・居場所)	【実践講座】	『ことばのキャッチボール…正しいネット利用』
11月	(絆・居場所)	【学習会】	『QUアンケート結果を教育相談に生かす』
1月	(安全)	【実践講座】	『けがの予防講座』(児童対象、保護者等も参加)

年間を通しての活動

- ・(授業・安全) 授業研究 (国語・算数・道徳・学級活動や各教科での安全学習) 全教員が1回以上実施。
- ・(絆・居場所) こまめな教育アンケートの実施(対象 児童) 子どもの悩み、変化などの早期発見。
- ・(絆・居場所) 教育相談活動の充実 ゆっくりと相談できるような体制づくり。
- ・(絆・居場所) キャリア教育を意識した特別活動や学校行事の企画・立案 企画・立案時に育てたい力を明確化し、職員で共通理解。
- ・(絆・居場所) 主体的な児童会・委員会活動・たてわり活動の支援 児童のアイデアが実現できるように支援。
- ・(安全) 学校安全計画や危機管理マニュアルの見直し ミニ避難訓練による問題点の洗い出し。安全学習のカリキュラムの見直し。
- ・(安全) 危険予知トレーニング(安全学習副読本を使つての学習) 適時にモジュール学習として実施。
- ・(安全) けがの未然防止のための環境整備 安全点検項目の見直し。夏季休業中の職員作業。
- ・小刻みなPDCAチェックの実施(対象 教職員)

4 子どもたちへの効果

① 授業づくりの取組について

事後アンケートの結果を見ると、「授業が分かるか」という意識調査では、「よく」「だいたい」と答える児童が増え、「わからない」と答える児童が少なくなった。授業のユニバーサルデザイン化を続けてきたことや、「山場」をつくることを意識して授業づくりを行い、児童の学習意欲を高めようと取り組んできた成果だと考える。他方、「授業に主体的に取り組んでいるか」という意識調査では、大きな変容が見られなかった。児童が主体的に授業に取り組めるよう、話し合いの場面や参加できる場面を工夫していくことが今後の課題である。

② 絆づくり・居場所づくりの取組について

事後のアンケート結果を見ると、「学校が楽しい」「みんなで何かするのは楽しい」の両意識調査では、「あてはまらない」と答えた児童が減ってきている。委員会活動やたてわり活動の成果として、「楽しい」と感じる児童が増えてきたことが分かる。課題としては、「よくあてはまる」という児童が減少していることが挙げられる。教師の声かけや他の児童と認め合うような活動を取り入れることで、「達成感」や「充実感」を味わわせることができるのではないかと考える。

③ 安全教育の取組について

事後のアンケート結果を見ると、「災害が起こったときどうすればよいか分かるか(災害安全)」という意識調査では、「わからない」と答える児童が減ってきた。避難訓練の振り返りの記述を見ても真剣に取り組む様子がわかった。「交通事故にあわないように気をつけているか(交通安全)」という意識調査でも同様の結果が見られた。今年度は、交通安全教室の実施方法を見直したり、ミニ通学団会を開くなどを交通安全意識を高めたりした取組の成果だと考える。

課題としては、けがや病気などの生活安全に関しては大きな変容が見られなかったことが挙げられる。次年度以降、学校安全計画の見直しとともに、子どもたちへの啓発活動を引き続き行ってきたいと考えている。

5 おわりに

今年度は、「授業づくり」「絆づくり・居場所づくり」「安全教育」の3つの柱で実践を重ねてきた。各学期の終業式でインタビューをすると、子どもたちは口々に「今のクラスでよかった」という言葉を返してくる。これからも、ねらいをもった活動を展開していくことにより、児童の自己肯定感や自己有用感を高めていきたい。そして、「心も体も安心・安全な学校」、全ての児童が「国分の子でよかった」と言える学校をめざしていきたい。